

意見要旨

第3回 えきしろ空間活性協議会

日時	2026 年 7 月 13 日(月)				
場所	松本市立博物館 1 階 講堂				
出席者	区分	所属団体	役職	氏名（敬称略）	出欠
	有識者	清泉女子大学	学長・教授	山本 達也 （座長）	出
		東京大学	副学長・教授	出口 敦 （副座長）	出*
		信州大学	講師	李 賢郁	出
	商業・経済	松本商工会議所	会頭	清水 是昭	出
	公共交通・ 観光	アルピコ交通株式会社	代表取締役	小林 史成	出
		東日本旅客鉄道会社	長野事業本部長	下大藺 浩	出*
	観光	松本観光 コンベンション協会	会長	齊藤 茂行	出
	文化芸術	(株)あをぐみ	取締役	大輪 俊江	出
	サービス業・ イベント	松本商店街連盟	副会長	花岡 由梨	出
宿泊	全国旅館ホテル 生活衛生同業組合連合会	青年部 未来事業担当副部長	小林 篤史	出	
*オンライン出席					
議題	1. 開会・挨拶 2. 議題 (1) 第2回えきしろ空間活性協議会の意見等に対する対応方針【資料1】 (2) えきまえエリアビジョン 界隈毎の目指す姿【資料2】 (3) えきまえエリアビジョン 7つの取組方針【資料2】 3. 報告 (1) 松本駅交通ターミナル機能強化構想 策定状況 (2) (仮称)デザインコード 策定状況 4. 閉会				

■意見要旨

○議題(1)～(3)に対する質疑・意見

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
1	・パブリックスペースは時間帯によって集団の使い方が変わるため、各利用者層の活動を促すことができる空間とすることが重要である。 ・人は空間にある設置物からメッセージを受け、次の行動に移す。時間帯別の集団の変化に加え、空間にある設置物による行動の変化を観察されたい。	—
2	・平日と休日、昼と夜の利用者層やアクティビティの違いを界限ごとに分析的に入れ、将来的な設えに反映してほしい。	—
3	・パブリックスペースの再整備だけでなく、周囲との繋がりや周辺の変化も想像する必要がある。 ・松本駅周辺は、「交通結節機能」や「拠点性」という言葉は出てくるが、限られた土地で憩い空間と交通機能のバランスをどのようにすべきか、具体的に議論すべきである。	—
4	・交通は将来的に無人タクシーもあり得る。 ・自動運転を想定する場合は具体的なルートや用途、実施目的を決定の上、シミュレーションする必要がある。未来のテクノロジーはわかる範囲で想定する必要がある。	—
5	・駅周辺含め、まちなかの限られたスペースを作り直すのは、既存のものがあり、非常に難しい。 ・自動運転を将来的に見据える場合は、自動運転のための道路デザインを先にする必要がある。 ・人が集まる場がイオンモールだけになってしまった中で、4つの界限で人が集まる拠点ができるという期待感が持て、商業の振興や空き家問題解決につながると期待している。 ・現在、松本は多くの外国人が訪れているため、海外の方も楽しめる仕掛けがあると良い。	—

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
6	・広場や公園に視点が置かれているが、そこをつなぐ道路や交通を整理しないと点だけになってしまうことを危惧する。 ・松本駅周辺では鉄道駅とバスターミナルを一体的に捉えたステーションという場と、まちなかをつなぐかが大事である。 ・公共交通や徒歩、自転車、自動車をつながないと、松本のパブリックライフの形成やまちなか回遊は困難である。駐車場・駐輪場用地等の交通スペース確保が必要である。	—
7	・パブリックスペースは1つの場所に機能を詰め込み過ぎず、役割分担を行うべきである。 ・例として ①花時計公園はイベントが多い。 ②駅前記念公園は、あがたの森公園の子どもと緑の中でくつろげる公園とは異なり、ブエナビスタや駅前である立地を活かした特徴づける。 ③松本駅周辺は機能的であってほしい。住民はスムーズに会社や学校に行け、観光客は駅からアルピコプラザまでの繋がりが分かりやすくなることが望ましい。観光客が駅に降りたときの松本に対する評判を意識されたい。駅前広場は北側に松本の文化性を出すのがいいのではないか。 ④女鳥羽川は、まちなかに川があるのがいい。川沿いでフードが手に入り、川の方へ降りられるようになっており、お年寄りから若いカップルまでターゲットにできるとよい。	—
8	・各界限の利用者が観光客なのか地元なのか等、利用者層を想定すべきだろう。 ・地域課題である建物の更新時期や自動車保有による可処分所得の低下等に対し、界限の目指す姿の繋がりと解決法が見えにくい。	—

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
9	・同じ人でも曜日や時間、一緒にいる相手によって、訪れる場所が異なる。時間によってどのような空間になればいいか考える必要がる。 ・広場が良くなる一方で、どうやって回遊するのが懸念される。 ・個人的に、花時計公園は民間の注力があるため、あまり注目されていない駅前記念公園をはじめにやりたい。周りの建物を含め、課題が多い駅前記念公園周辺を整備できたらと思う。 ・駅前記念公園は、アーバンスポーツ施設があることは面白い文化になると感じる。また、市民農園のような自然あふれたものの中で、子どもが自由に出入りできる空間があってもいい。対局なものを同じ場所に置くと、利用者層が幅広くなり、多世代交流に繋がりそう。	—
10	・学ぶ要素は子ども、大人にとっても重要になる。 ・駅前のアクティビティは、市民だけでなく、短期的な市民といわれる滞在者にも有益になる。 ・五感で感じられる自然が松本ならではのつながると感じる。 ・若者がまちなかで「挑む」「体験する」場所ができると良い。	—
11	・えきまえエリアという極めて重要な場所にある広場・公園の必然性を追及してもいいのではないか。別の場所においても機能する場にしたい。 ・えきまえエリアは、松本を訪れる人だけでなく住んでいる人にとっても、「松本はこういうまちです」というプレゼンの場と感じる。 ・各界隈で最新の学術とコラボして、各科学技術の最先端と触れ合えとおもしろい。地元に通う高校生や市民が先端に触れられるまちになると良い。	・信州大学へのヒアリングにて、最先端技術や知見の蓄積を感じた。まちなかに落とし込めるとよいと感じている。

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
12	・現在の実施方針では、ハード整備をメインにしている印象を受ける。 ・場所をつくるだけでなく、公民学連携の組織を作り、取組みを持続するマネジメントが重要である。今後まちづくり組織が必要であり、目標にマネジメントに関する内容を組み込むべきではないか。	・松本市を中心に三の丸エリアプラットフォームをつくり、今年度から一般社団法人まつぐを立ち上げた。公民学が連携して発展させる意志と運営に繋げるような内容もビジョンに盛り込みたい。
13	・ビジョンは20年後を目標としているが、これから20年、住んでいる人や働く人、学ぶ人がパブリックライフの充実に対してどうやって貢献するのかに関する指針が少ない。 ・ハード整備が、ビジョンに記載したことが全て20年後にできるのか疑問である。行政が動かないうちに、空き地問題や建物の老朽化は進んでしまい、民間が待てずに空き地となってしまう可能性がある。 ・早急に民間も含めたまちづくり関係者の共通認識をつくるため、産官学の役割分担とスケジュールを明記すべきである。	—
14	・どのように採算が取れるのかが民間からは見えにくく、投資で二の足を踏むため、民間に分かりやすい説明が必要である。 ・行政と民間の意思決定のタイミングを合わせていく必要がある。	—
15	・更新が必要な多くの建物はアスベストの問題や予算不足により放置されており、市の支援も必要である。 ・建物更新を進める際は同じ方向性の街並みとなるようルールがあるとよい。	—
16	・松本城はインバウンドの客が多いため、天守観覧料を値上げしたが客数は減らなかった。高付加価値で民間が利益を得られて回せるようなビジョンにしたい。	—

No.	意見等要旨	意見等に対する説明
17	・地域内経済が重要だが、経済視点がどこの取組みに関係するのか分からない。取組みに落とし込む必要がある。	—
18	・松本市から出すお金だけでなく、国の補助金を持ってくるなど、方法を考える必要がある。	—

以上